

## 中間市中央公民館自然再発見講座第四回／障子ヶ岳登山

「古代から戦国時代まで、歴史を秘めた照葉樹林の山」

(2016年11月11日)

秋空の下、中間市の中央公民館自然再発見講座の受講生28名と中間市中央公民館の職員2名の計30名で旧勝山町の九州では2番目に大きいと言われていた綾塚古墳見学と戦国時代に築造された中世の山城跡が残されている障子ヶ岳登山を実施しました。

綾塚古墳ではみやこ町の歴史民俗博物館の木村係長から京築地方には多くの古墳跡が残されていることや石室内の構造の説明を聞き、古墳時代のこの地の華やかさに驚きました。



障子ヶ岳登山では、山道脇の淡いピンク色の花を咲かせているサクラタデ、真っ白な小さな花を積み上げているサラシナショウマ、紫色の実をつけ優しい葉を持つヤブムラサキ、赤い実をつけているヤブコウジ、サルトリイバラ、フイチゴ、ビナンカズラや初めて見るお尻が凹んだドングリ、シリブカガシなどに感動しながら登山しました。特に、サラシナショウマの前では皆さんシャッターを切り、出会えた喜びを顔一杯にあらわしていました。また、昨日の雨が幸いしたのか、たくさんのサワガニとも出会い、初めて見る人もいて、手でつかまえたりして皆童心に戻りました。



途中、白っぽい石と黒っぽい石との出会いや森林環境税で伐採された森林であるという証拠のステッカーが人工林に貼られていたこともあり、森林インストラクターより、障子ヶ岳を構成している花崗岩と片岩の生成などの地質と森林環境税、その使われ方、間伐の仕方などの話も聞き、自然の再発見となりました。

頂上では晴れていたこともあり、中間市でよく見かけている皿倉山も遠くに見ることができ、大満足な顔で下山し、帰路につきました。



(スタッフ：宮本、野見山、中村)